

2006年5月5日

第16回 縄文遺跡ハイキング報告

主催 ハーモニーの家の会

*講師 青木一男先生

リーダー 林谷 英治
会計 北川 輝子

1) 参加者 26名

横井 2名 丸山 2名 高畠 4名 昌谷 1名 鳥井 5名
谷 2名 林谷 2名 雄倉 3名 松平 2名 保坂 1名
小林健次 1名 北川 1名

2) 会費 1名 2,500円 = 26名分 合計 65,000円

ハイキング行程

* 新緑と桜満開の蓼科をバスで予定通り午前9時出発、青木先生の講義を受けながら諏訪湖の上社を過ぎて諏訪博物館に到着した。御柱祭に代表される、諏訪地方の信仰の発生と歴史的な変化、進化を展示物を通して先生からの解説を聞きながら見学した。在野の考古学者藤森栄一氏の業績を偲びながら10時半退出。

高速道を使い、平井出に向かう。塩尻インターで19号線に出て、梨、りんごの花を愛でながら11時30分平出に到着した。

** 残雪の北アルプスの乗鞍岳、穂高岳が一望できる塩尻市に最近、整備、復元された縄文時代から古墳時代、そして平安時代の土器まで発掘された家屋集落を訪れ楽しんだ。その後20分ばかり、由緒深い家並みが綺麗に保存されている住宅街を散策して塩尻市立平出博物館に到着した。ここは、前にも縄文の会で訪れたことがある懐かしい場所であった。館内の土器、石器の説明を聞きながら見学、終わって公園で昼食になった。

*** 午後1時30分木曽街道を通って、ゴンベイ峠を越えて伊那市に入った。

北アルプスから中央アルプス、駒ヶ岳を見ながら伊那市に入る。伊那はまさに桜満開、いっせいに花々が競い合って咲いていた。今日の最後の目的地、伊那市考古資料館を訪問縄文中期土器からかわいい土偶に触れる。古墳時代から奈良、平安、鎌倉時代の陶器なども見ることが出来た。焼き物の進化過程を実際に追って見る面白さ、焼き物の形についていうと、今も昔も使いよい形は継承されて残っていくものなのだと感じ入った。

資料館は小高い山の中腹にあるので伊那市が全貌できた。その前は蛾姫たる南アルプスが屹立している。甲斐駒から鳳凰、仙丈岳、北岳見事な壯観の舞台であった。

記念写真撮影して帰路に着きました。青木先生、運転手さんに感謝。

